

シルバー ところざわ



◆発行 社団 法人 所沢市シルバー人材センター広報委員会 1995 No.52

8月号

==安全就業強化運動月間==

災害、最少発生件数（1件）の成果!!



「シルバー人材センター安全就業強化運動月間」が“みんなで目指そう、災害ゼロのシルバー事業”をスローガンに、去る7月1日から7月31までの間、全シ協主唱のもと制定実施されました。

当センターでは会員皆さんのご理解とご努力により、期間中災害発生件数ゼロとは参りませんでしたが、最少発生件数1件に止まることができました。

会員皆さんの就業先が多方面にわたり、且つ就業時間も個々に異なるため運動の主旨徹底が極めてむずかしい中での運動でしたが、当センターでは事前に立看板の作製掲出、並びにチラシの作製配付等により出来得る限りの方法で運動展開の徹底を図りました。また期間中の7月12日（水）、会員安全就業推進委員会では長野委員長始め全委員にて市内5ヶ所の会員就業先を訪問、就業先担当者ご案内で直接就業現場を訪れ、就業会員皆さんに直接お逢いして、運動展開の主旨並びに安全就業の確保、災害ゼロ達成を強く要請いたしました。

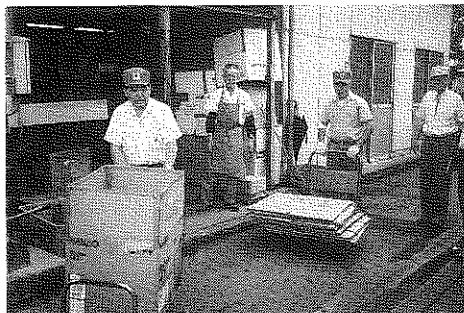
そんな中の7月13日、植木剪定中の会員による傷害事故が発生いたしました。発生原因は通常では考えられない、極めて初步的ミスによるもので、慣れによる「大丈夫ダロー」が要因でした。ダローでなく「ダ」の安全確認の重要性を改めて認識させられる事故でした。



就業会員と安全委員の皆さん
(スーパー・パック(株)所沢工場内にて)

た。

運動期間中の残念な唯一の事故でしたが、全会員の皆さんにこれを「他山の石」とし、今後就業に当って、又その途上においてグローを排し、「安全ダ・丈夫ダ」の安全確認を励行、災害ゼロの日々を重ねて行くことで、正に災害最少発生件数1件の成果と言えると思います。



就業中の会員を激励する長野委員長

=福祉・家事援助サービス業務の事業化=

期待される女性会員の積極的参加!!

平成8年度実施へ向け検討が続けられておりました、当センターの福祉・家事援助サービス業務の事業化へ向けての作業が着々と進められ具体化されつつあります。本年度総会を終えて間もない6月16日（金）高橋理事長を始め、事業部会、婦人部会の部会長他、幹部並びに事務局より大野事務局長始め4名の職員が参加、第1回の合同会議を開催、平成8年度当初実施に向け下記の基本方針並びに具体的な実施要領が策定されました。

記

<基本方針>

高齢化現象が著しく、これに加え、核家族・共稼ぎ家族の増加に伴う福祉・家事援助サービスの需要が急速に増加している。この様な情勢に対処するためセンターにおいては従来もサービス提供に取り組んできたが、更に増大するこれらのサービスのニーズに応じるため組織の強化と充実を図り、高齢者の福祉の増進と高齢者の尚一層の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

<実 施>

女性会員の福祉・家事援助サービス意識の向上の徹底を図るため女性会員275名（5月末）のうち、概ね73歳以下の者を対象に説明会を実施すると共にアンケート方式により意志確認を図り、福祉・家事援助サービス要員を常時50名を目標に確保する。

<仕事のPR>

1. 市の広報紙を活用市民全世帯に周知をはかる。
2. マスコミ（ローカル紙）等の協力によりPRする。
3. リーフレット等を出張所・公民館等の窓口に配布する。
4. 各種行事（フェスティバル・商工祭）講演・研修会等に積極的に参加PRに努める。
5. 口こみによるPR。
6. その他

<仕事の内容>

1. センターの仕事は、官庁・諸団体（社協）等で実施している事業の補完業務である。
会員高齢者のため、下記のサービス業務は避ける。
 - (1) 寝たきりの人・病人の介護、入浴、痴呆老人の世話など。
 - (2) 重度の病気・障害のある人の介護で専門的資格・技能を要求されるもの。
 - (3) 発注者が非常識な人格と推察され会員とのトラブルが予測される場合。
2. センターで出来る福祉・家事援助サービスは、下記のとおりとする。
 - (1) 家庭の掃除、洗濯、簡単な食事の用意、買物、留守番、散歩の補助。

(2) 軽度の介護、その他。

以上第1回合同会議の決定に基づく対象女性会員に対する説明会が7月6日（木）旧市庁舎4階会議室で行なわれました。

第1回の合同会議同様、高橋理事長はじめ同メンバーの方々が、何名の女性会員が説明会に出席してくれるか心配顔で待つ中、73名の会員が参加されました。

説明会は山川次長の司会で進められ、先ず理事長より家事援助サービスの必要性・重要性について、大野専務よりセンターが予定する家事援助サービスの仕事の種類・内容等細部について説明、共に理解と協力を求めました。

以上挨拶と説明に引続いて、山川次長が予め用意した5項目にわたるアンケート調査票を配布し記入回答を求めました結果、出席会員中54名の方から家事援助サービス業務に就業協力したいとの回答が得られました。これは予定要員数を満たすもので、理事長始め関係者一同先ずは一安心と言ったところ。あと今後本事業への就業を希望される会員に対する家事援助サービス業務の研修指導及び同事業内容の一般市民世帯へのPRなど重要事項が残されておりますが、着々と態勢が整えられつつあります。高齢化の一段と進む中、家事援助を求める高齢者世帯が益々増加の一途を辿ることは確実です。従いまして今後当センターにとってこの事業は最も重要な事業の一つとなることは間違ひありません。そこでこの事業は、ご承知のとおり専ら女性会員の方が主体の事業となります。従いましてこの事業の遂行に当っては、今後女性会員の皆さんが「福祉の担い手」としての自覚をますます深められ、要員としてセンターにどしどし登録されるなど一層の奮発と積極的参加が強く望まれるところです。

=会員安全就業推進委員会=

安全就業について（社）飯能市シルバー人材センター研修訪問//



梅本副理事長はじめ飯能市S.C幹部の方々

予め訪問をお願いしてあったため、わざわざセンターに隣接する公民館の会議室を会場にご用意いただき、梅本副理事長さん始め大河原安全委員長、大野事務局長さん、その他幹部職員の方々の列席、お出迎えを頂き先ずは恐縮する。

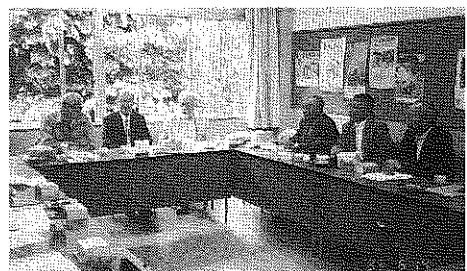
安藤主任さんの司会で、両センター幹部の方々のご挨拶並びに事業内容、活動概況等について説明を頂いたあと、相互交換資料の説明質疑、更に主題の会員安全就業の確保対策について意見の交換、討議を2時間余にわたって行ないました。

飯能市の人口は8万弱で所沢市の約4分の1、これに対しシルバーの会員数は330名と当センター会員数の2.5分の1と高い比率。

又平成6年度の年間事業収入は、1億3,700万で当センターの約半分に近い高い実績を上げ、活発

梅雨入りが報じられ、霧雨煙る6月14日（水）当センター会員安全就業推進委員会では、長野委員長始め全委員並びに事務局より大野事務局長、設楽安全推進員が加わり計6名で、会員の安全就業確保対策に万全を期するため、（社）飯能市シルバー人材センターを研修訪問いたしました。

飯能市は、県が指定する奥武藏自然公園の一画で、所沢市とは僅かに隔たる地域ですが、空気が清々しく、緑も濃く深く感じられました。



当センター安全委員の皆さん

な事業活動が推測されました。

今回訪問の主たる目的の会員安全就業関係についてですが、平成6年度の傷害事故の発生件数では当センター7件に対し、1件と最少発生件数。また平成5年度との比較では飯能市は3件を1件に減少、当センターでは6件が7件と1件の増加でした。発生件数を確実に減らす努力の積み重ね、その先に「災害ゼロ」の金字塔がある、との目標で頑張っておられる由。又会員個々の活動としては、安全に対する認識の自覚（安全標語の募集等）、会合への積極的参加（安全研修・講習会、地区懇談会等）を呼びかけ意識の高揚を図っているとのことでした。その他参考となる事項を多々伺いましたが、今後当センターの会員安全就業推進活動の中で活用させていただく予定です。

当センターの会員安全就業推進委員会としては始めての試みで、準備不足等、不行届きの点が多く反省点が多々ありました。幸い先方センターのご列席いただいた幹部、職員の方々の厚いご配慮により、当方にとりましては種々収穫多い訪問となりました。

誌上厚く御礼申し上げますと共に、益々のご発展を祈念申し上げる次第です。

リフォーム実践センターを見学して

婦人部副部長 村上和枝



港区シルバー 玄関前にて

港区の人口は15万人と、所沢市の約半分。うち60歳以上が3万3千人との由。シルバーの会員数は、男45名、女425名と、女性会員の多さはシルバーに対しての認識が如何に高いかが窺われました。

ソーイングサービスを見る限りでも、すべての運営は会員が行なっているとの由、それはすばらしいリーダーが居られるということです。洋裁店を経営して居られた縫製の職人さん（男性）がリーダーになられ、紳士物のできる男性会員も入った14～5名の班ですが、常時センターに来て仕事をされる方（場所が狭いので）は4～5名とのことでした。私達が見学の際は男の方が紳士物ズボンの裾直し、女性1人がジャンパースカートのサイズ直し、2～3人の女性会員は、港まつりのバザーに出品する布の帽子を作つておられました。1,500円で売られるそうです。他に注文服をパターン化できる専門家、和服の注文も3～4名でこなしているとのことでした。

私共のリフォームは、会員の方の要請から出発し、自分の物を作り変える、作りたいと先ずは自分の物が対象で、いずれは他人のものも引き受けられるようになるかナ、と消極的な目標でした。然しこれが港区のシルバーを見学して、私達も折角リフォームを実践するのならば、先ず小手調べに自分の物



指導員の指導を受け作業する会員

から始め、腕が上ってきたら作品をセンターのショーウィンドーに陳列する、又市民フェスティバル、商工祭、一坪ショップなどに出品展示する。又ミシンのない家や、時間のない人達の手助けをするなど、目標を港区の線まで高め持つていけたらいいナーと感じました。

何れの事業も先ず会員さんの自覚の有無に大きく左右されます。シルバーに入会された以上は、今日まで積み重ねてきた自分の経験実績を、高齢化社会の中で困っている人達の手助けとなるようどう活かして行くか、全会員の方々がもう一度再確認して自分に出来ることを最大限に活かして欲しいと強く感じました。

「シルバー人材センター」お世話になります

永源寺住職 日尾野 良 弘

シルバー人材センターが設立十周年を迎えたのは、確か昭和六十三年であったように記憶しておりますが、更に七年が経過し、二十周年に向かって素晴らしい活躍をされ、多くの方々に感謝されております。

私がこのシルバー人材センターの存在を教えていただき、お世話になった最初が、昭和六十一年七月二十七日でした。それから深いご縁をいただいて、今年で九年間お世話になっております。

私の所はお寺でございますので、お盆・お彼岸は申すに及ばず、御命日、又は喜びにつき悲しみにつき、墓参に見える方が年々多くなっております。山門を入り墓前にぬかずくと何となく心が落ちつき、安らぎを感じるといわれます。すがすがしい清らかな気持ちで、お寺参りやお墓参りをしていただきたいといつも心がけております。

春秋の両彼岸・お盆迎えの前・年末と、墓地のお掃除をお願いしています。来ていただく方はどの方も大変熱心に、しかも丁寧にお墓の隅々まで手を入れてお掃除をしていただいております。特にお盆の時季は連日の猛暑で、大変な作業です。特にご苦労の多い事と思います。

そのようなご苦労のお陰で、墓参に来られた方々が、きれいに掃き清められた墓前でお参りをしている姿に接しますと、私まで心なごむ思いがいたします。

シルバー人材センターに入会されておられる方々は、それぞれの職業を通して社会に貢献され、退職後の人生の歩みの一つとしてこのシルバー人材センターを選ばれたものと思います。そうした方々の志が、お仕事を通して、受ける側の人の中に伝わってくるものだと思います。これからも末永くお世話になりたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

シルバー人材センターの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



俳句

吾妻地区 細谷 溪泉子

風鈴の音色変りて雨となる
梅雨の収持ち金色の堂持す

瞬間に生死をわかつ寒の地震

梅ふふむ湯島天神女坂

夏となるもう活断層動くなよ

吾妻地区 淑江 梯子

冬の日に背中を向けて床屋かな

芒原一山揺らぐ波の音

石重ね美くしの塔赤とんぼ

新聞の俳句切り取り秋灯下

手習や寺の庭より花吹雪

奥の院磴百段のつづじ山

筆持ちて雨の窓辺に柚子の花

草木瓜の紺屋の瓶に培かわれ

警棒を見るや三ツ折り春炬燵

涙に垂れ流を染めし藤の花

=戦後50年に思う=

ボロボロ復員と故国…（木で鼻・闇市・拾った生命）

新所沢地区 高 橋 義 男

昭和21年4月末、復員病院船により広島県大竹港へ帰って来た。

われわれボルネオからの引揚げ組は、戦闘ではなく派遣地における戦中戦後の情況がきわめて劣悪で、ボロボロの着のみ着のままと言った有様で帰って来た。従って全員に対し頭のテッペンから足の爪先まで一揃いが給付というわけ。旧軍装のストック品ではあっても、戦闘帽・軍服上下・軍靴・靴下まで一揃いが支給されることとなり、引換券が渡された。ソレッとばかり交換場所へ皆殺到したが、なんとなく仲間となつた私達3人は、引換券があるのでから多少品物の良し悪しはあっても員数はある、くれるだろうとおっとり構え騒ぎの静まつた後出かけて行った。引換え給付の係は柳井国立病院の大竹出先機関の看護婦3人。帽子・軍服上下は、身体に合う合わないはとにかく渡されたが、靴がないというのである。それもまだ無いと言うだけである。今思えば、あれが木で鼻を括ったと言う態度だったのかといった素っ気なさであった。

「ちょっと待ってよ、無いって、こうして引換券が引揚げ援護局長名で発行されているんでしょ。無い、ありませんでは済まんでしょうが」と喰い下がったが、いやに別嬪さんの3人の看護婦さんの中で婦長らしい女性が、さもうるさいと言わんばかりに取り澄ましてこちらを見ようともしないで「無いものは無いのです」など、繰返すばかり。あの2人は奥へ引込んだまま出て来ようともしない。敗残引揚げの、そして「大の男」とは言えないまでも3人の引揚げ男は、木で括ったその鼻先であしらわれているという風情である。ようやく日本の地を踏んだという感慨で、いまだ平仄の合いかねる有様ながら次第に「そんないい加減な話があるか」という不満と、更には怒りらしいものが沸いてきて、「この責任者に合わせろ」「由来この病棟は泥棒が多いのです。私がその責任者です」「よし、そんなら援護局長の言い分を聞かなければ承知でけん」「あなた達は明朝、柳井本院の方へ転院の命令が出てます」「いや、この話が決着せんうちはここを我々は動かん」「今晚限りで明日からあんた達の食事は出来ませんよ」「オウオウ、我々はボルネオで3日や4日食わんでいたことは何度もあった」「……」という具合いで問答の上、一旦居室へ引揚げた。その夕方である。あの木で鼻を括ったような美女婦長らしいのが古靴を一足ぶら下げて「高橋さん」と訪ねて來たのである。

「今日は失礼しました。あなた方が転院してくれないと私達の責任問題になるのです。考えてみれば盗まれたことも私たちの管理がまずかったのです。済みません。この靴で転院して下さい」と屋間とは打って変わった憎然というかしおらしさである。「で、この靴はどうしたんです?」「私の責任ですから、闇市で（闇市なるものがあるを初めて耳にした）私が買って来ました」と言う。ここで梃子でも動かぬ筈の私の憤慨はアレヨアレヨと萎えしぶんてしまい、「あんたが買うて来ることはない。わかりました。私は明朝転院します」と口走ってしまった。

山口県柳井市の国立病院に転院して3日か4日経ったある日、若い、そうまだ20歳前後の4～5人の旧兵がドヤドヤといった風情で入院して來た。日本は負けたとは言え、まだこんな若者が居たのだナと感に堪えた思いであったが、入って來た翌日ちょっと外出とばかり出て行った。どんな人々だろう?と看護婦さんに聞いてみると柳井港に基地のあった「人間魚雷要員で、戦争が終わったので生命拾いをした人達です。ただ、あの人達の治療要因は花柳病なんです」との事。風前の灯だった若者が、思いもかけなかった情況の変化から身心を翻弄され、そんなことになったのであろう……と、拾って來た命についての感慨にふけっているうちに外出した若者達が帰つて來た。その中の2人ばかりが、石油箱を担いでいたのを見ると、なんと袋入りの乾パン、軍服、靴下、それに新品の軍靴、etc. つまり引揚げの復員者に渡される援護物資が山盛り入っている。

彼等は引揚げ者ではなく、入退院はしていても内地に居た者たちばかりである。「どうしたの、そんな物資を」と尋ねてみると「エエ、大竹分院にコレ（小指を立てて）が居ましてネ、引揚げ船が入る度にこれ位のものをヨコしてくれるのですよ」と事もなげに、然も少し自慢たらしく言う。ヤラレタ、してやられた、とあの別嬪看護婦の取り澄ました顔が浮かぶ。結局こちらの鼻の下を読まれていた訳である。

もともと従軍看護婦は下士官待遇で、戦地を渡り歩いた強者。ナヨナヨしていたのでは仕事にならんという訳で、兵士等などなめているというか威圧的で、いわゆる頭ごなしで言いなりにしつけている。そのやり方では少し手強いかな……と感じたか、私には多少色仕掛け風でコロリと言う通りに動かしただけで舌を出して薄笑いを浮かべたであろうと思えば、直ちにでも大竹へ引き返して怒鳴ってやらねばと眠れぬ夜を明かしたが、あの滔々たる戦争直後の闇社会についての認識が夜明けとともに広がって腰くだけに終わってしまった。

昭和21年4月、日本の地を踏むには踏んだが、家郷に帰る前の病院で体調、調整中の出来事であった。

甘くなかった植木職……!!

所沢地区 佐々木 清

本年2月、当センターの会員として入会すると同時に植木職の実技講習に参加、皆さんのお仲間入りをいたしました。30余年にわたる長いサラリーマン生活からの転進で、果たして勤まるかどうか心配でしたが、田舎育ちの上、我が家家の庭に多少の植木もあり、素人なりの手入れもしているんだから……と、至って安易な気持ちで植木職を選びました。然し実際は趣味程度の経験で通用する程甘っちょロイものではありません。

今振り返って見ますと、1～2ヶ月の間はただ夢中で空廻りしていただけ。参考書も手にしましたが、毎日が失敗の連続。矢張り自分の力ではこのあたりが限界カナ……と落ち込んでいる時、初めから達人・名人と言われた人は居ない。「習うより慣れろ」「百聞は一見に如かず」という諺がある。「決して気落ちするな、我々もそうしてやって来たのだ」とその都度厳しく先輩に悟されながら、又「ご苦労さん」といつも労らいの言葉をかけてくれた事務所の方々に励まされ、やっと今日まで続けてくることができました。そうした中で植木職の基本である剪定・整枝の目的、その技法、樹木の生育、サイクル、樹形の仕立てなど、毎日実技の中での指導。悲しいかな頭では理解できたつもりでも体がビビッて仲々動かない。いざ本番でワサワサの木の前に鋏を持って立ってはみたものの、どの枝をどう切ってよいものか、右を眺め、左を眺め、ただ呆然とするばかり。先輩が来て「先ず木全体を良く眺め、要らないと見極めた大枝、小枝を先ず下ろせ」とご自身の鋏で「これは平行枝、これは逆さ枝、これは立枝だ」と、側で見ている私には考えられない素早さで判断整枝、アッと言う間に樹形を整えます。樹形を見る目、技術の違いにあきれるばかりです。特に松、楓、梅、紅葉、椿などの出来栄えは見事なものです。あの野木のようなワサワサの樹が化けたのか、先輩の技術に樹が化かされたのか……？あれまでに仕上げる、あのセンス、バランス感覚はどこから生まれて来るのか感嘆するばかりです。又、植木職には道具（鋏などの刃物）が重要な要素。要点は良く切れ、これを手際よく使いこなすこと。私にはこの刃物研ぎが難問中の難問。先輩から「刃物を研ぐ前に、砥石を研げ。その砥石で刃物（鋏）をこうゆう風に持つて（今まで私が研ぐ時と鋏の刃先が逆）腰で研ぐものだ」と厳しく実習も受けました。泣く程に研いだつもりが、先輩の半分も切れない。よく研ぎすまされた鋏で先輩が剪定している時の鋏の音はポンポンと小太鼓でも打っているような軽快なリズムが耳に入ります。その他樹木の種類や名前も私にとっては難物です。ヒノキとサワラの仲間は名前は知っていますも、実物の区別がつかない。ある現場で、家の主人から「このヒバ（檜葉）、本当はなんと言ひバですか」と問われ、嫌なことを聞くナードと思い、枝先が垂れ下がっていたので、咄嗟に「シダレヒバ」と言ってしまいました。後で調べたら、正しくは「イトヒバ」でした。又、別の家では「山茶花」と「椿」の見分け方を聞かれ、苦しまぎれに、秋から冬にかけて咲くのが「山茶花」、春に咲くのが「椿」と教えましたところ、「それは良いことを伺いました。私にも良くわかりました」とお礼を言わましたが、本当は「春山茶花」などもあって、ただ咲く季節だけで判断することは大変な誤りでした。夢中で走っている新米、まだ毎日がこんな調子。余りにも安易な気持ちで飛び込んだ植木職、然し折角好きで取り組んだ植木職。頑張りますので今暫らく見守って下さい。

汗（本当は冷汗かも）で下着までびっしょりの身体をチャリンコ（自転車）に乗せ、ああ、今日も一日無事終ったか……、と僅かな涼風を身に感じ我が家へ向けペダルを踏む道すがら思うことは、私もやがて一日も早く一人立ちし、先輩やセンターの期待に応え、そして「お蔭様できれいになりました。又お願ひします」とお客様の感謝を込めた声を背に帰路に着き、冷汗ならぬ爽やかな汗かいてペダル踏む日々を迎えることです。



皆さんの努力結果

月	会員数	受託件数	就業人員		契約金額			
			実人員	延人員	配分金	事務費	その他	計
4	832	296	346	5,208	20,261,730	1,191,283	666,324	22,119,337
5	838	154	345	4,944	20,412,123	1,259,460	581,219	22,252,802
6	764	169	350	5,446	23,603,629	1,362,887	442,869	25,409,385
合計				15,598	64,277,482	3,813,630	1,690,412	69,781,524

ご寄贈のお願い

婦人部では、かねて会員皆さんから希望の出されておりましたリフォーム講習会を開講いたしました。つきましては、会員の方々で不用となった下記用品をお持ちの方がございましたら、是非ご寄贈下さいますようお願いいたします。

ご寄贈頂ける方は、センター事務局へお申出下さい。頂戴に上がります。

記

- 1. ミシン 2. ロックミシン 3. アイロン 4. アイロン台 5. 人体（洋裁用）

=自作手工芸品等の出展販売に参加下さい=

婦人部では、10月28（土）～29（日）両日、所沢航空記念公園内で開催される市民フェスティバルにおいて、会員皆さん自作の手工芸品等販売コーナーを設け、展示販売を計画いたしております。

多数会員皆さんの参加をお願いいたします。

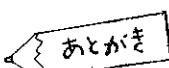
=安全（健康管理）研修会の開催=

- 1. 日時 平成7年10月16日(月) 9時30分より（配分金支払い日）
- 2. 場所 旧市役所3階 301会議室
- 3. 内容 高齢者の健康管理について
- 4. 講師 所沢保健所 先生（予定）



多数会員の皆さん、万障縁合わせてご参加下さい。

（配分金お受取りの方は、早目にお出掛けの上是非ご参加下さい。）



年明けから異常続きの本年、梅雨明けが長引き一時は冷夏の前兆かと心配されたが、下旬の7月23日に明けると一気に35度を超える真夏日。以後8月23日に東京地方では連続真夏日31日間の従来記録を百一年振りに超え、引続き更新中。そんな中、8月15日は50回目の終戦記念日。複雑な気持ちで迎えたあの日と同じような暑い日。あれから半世紀、種々変遷を重ね今バブル経済の崩壊に伴う長期不況。一方長寿国世界一。会員の方々夫々の思いで50年の経過を偲ばれることと思います。

暑い寒いも彼岸まで……、やがて残暑も去り秋の訪れを迎えることとなります。夏の疲れを早くに癒し、体調を整えて仕事に遊びに備え、成果を上げ、次回シルバーだよりは明るいニュース満載と行きたいものです。

次回だよりは11月15日発行予定。原稿締切りは10月25日。多数の投稿をお待ちいたします。